

Ⅱ－２－２ 既成市街地内の幹線道路下で、新駅工事（延長約200m，幅約25m，深さ約20m，掘削土総量約10万 m^3 ・沖積土層）が開削工法（ソイルセメント柱列式地下連続壁工法）により計画されている。本工事の掘削は約1年間で完了し，発生土は道路や河川堤防事業等の他事業に搬出・再利用する計画となっているが，受入れ先の状況・条件に合わせた適切な搬出計画とする必要がある。以上を踏まえて，本工事の担当責任者として，発生土の処分に関する業務に当たり，以下の内容について記述せよ。

- （１）調査・検討すべき事項（関係者との調整事項は除く）のうち業務の特性を踏まえて重要なものを2つ挙げ，その内容について説明せよ。
- （２）業務の手順を述べた上で，業務を管理する際に留意すべき点，工夫を要する点について述べよ。
- （３）業務において必要な関係者との調整事項を1つ挙げ，業務を効率的，効果的に進めるための関係者との調整方策について述べよ。

1. 調査検討すべき事項															
(1) 地質状況															
本工事は、掘削土総量10万m³と多く、掘削残土は道路や河川堤防などの他工事に利用する計画である。掘削個所の総延長が200m、幅25m、深さ20mであり、掘削位置・深さによって土質が異なる事が懸念される。道路と河川堤防では必要な土質が異なることから事前に地質調査を行い、掘削区分毎の利用先を計画しておく必要がある。															
(2) 運搬路の調査															
工事現場内の残土を搬出する際にはダンプトラックを使用するが、現場の土質は沖積土層であるためダンプトラックを通行させる際のトラフィカビリティ不足が予想される。このため、事前に現地のトラフィカビリティを調査し、場合によっては地盤改良や敷鉄板の使用を検討する必要がある。 また、施工位置が市街地の幹線道路下であることから周囲の交通量などを調査し、搬出可能な時間帯の検討をする必要がある。															
2. 業務の手順と留意点、工夫点															
① 周辺環境調査：施工現場周辺、運搬経路の交通量や障害物等の調査。交通渋滞が発生する時間帯などは残土搬出を避けるなどの対応が必要である。															
② 地質状況等調査：設計での調査ではボーリング調査数が少ない等により詳細な地質状況が把握できない場															

合	が	あ	る	。	ボ	ー	リ	ン	グ	調	査	の	追	加	や	直	接	試	掘	す	る	な	ど	
し	て	詳	細	な	情	報	を	得	る	必	要	が	あ	る	。									

[illegible]

④	運	搬	道	路	の	整	備	:	地	盤	改	良	や	敷	鉄	板	な	ど	に	よ	り	場	内	
	の	運	搬	道	路	を	整	備	す	る	。	場	外	に	搬	出	す	る	際	に	は	一	般	道
	を	汚	さ	な	い	よ	う	に	タ	イ	ヤ	洗	淨	設	備	を	設	け	る	必	要	が	あ	る
	ス	ム	ー	ズ	な	出	入	り	が	行	え	る	よ	う	に	設	置	位	置	に	留	意	す	る

⑤	掘	削	、	残	土	搬	出	：	掘	削	・	残	土	搬	出	は	他	事	業	の	流	用	先
毎	に	搬	出	材	料	を	変	え	る	必	要	が	あ	る	。	こ	の	た	め	搬	出	先	毎
の	掘	削	が	可	能	な	対	応	が	必	要	で	あ	る	。								

[illegible]

3. 関係者との調整事項

[illegible]

現	場	の	状	況	は	日	々	変	化	す	る	た	め	、	少	な	く	と	も	週	に	一	
度	以	上	は	関	係	者	が	集	ま	り	打	ち	合	わ	せ	を	行	う	必	要	が	る	。

また、問題が生じた場合には発注者も含めた全体会
議を開いて調整を行う。